

はしがき

昨今のコミュニケーション能力重視のカリキュラムのなかでも、「聞く」活動の重要性はさらに増しつつあります。リスニングは理解の活動といわれますが、けっして受け身の活動を意味するのではなく、既習のあらゆる言語能力を統合的に活用し、さらに話題を取り巻く文脈や背景知識、その他の視覚情報などを駆使し、積極的に理解に到達する極めて能動的な活動です。言いかえれば、リスニング力向上のためには、テープ音声の聞き取り練習だけでは不十分であり、話者の意図を含めた内容理解への対策として、適切なストラテジー（方略）を習得することが必要です。

本書は、初級から中級の学習者に向けた、リスニング中心の英語総合教材です。さらなる社会の多様化と情報化の進む21世紀を生きる若者にとって共通の関心事である「世界の話題」を耳から理解し、バラエティー豊かなタスクを通じて、最終的にそれぞれのテーマについて自分の意見をまとめられるように構成されています。リスニング中心でありながら、これまで耳から理解することに慣れていない学生にも無理なく対応できるよう、本文は生きのいい簡潔な英語を採用し、また各話題の理解に必須の語彙や語句は、本文を聞く前のタスクの中で、音声を通して楽しみながら習得できるなど、学習の負担をできるだけ軽減するよう配慮されています。

本書の特徴は以下の5点に集約されます。

1. 文字中心の学習から音声中心の学習へ

リスニング活動を総合的英語運用能力育成の中心的活動に据えたことで、これまで重点の置かれていた「読む、書く」学習から「聞く、話す」学習へスムーズに移行できます。

2. 明確な学習目的とタスク設定

学習の目的を明確に意図したタスク設定により、リスニング活動を必要とする様々なコミュニケーションのためのストラテジーを、集中的かつ効率的に習得できます。

3. 広い視野で世界を理解

話題の選定に関しては、グローバルな視点から、社会問題、心理学、情報社会、語学、ポピュラーカルチャーなど、大学生にとって身近でありながらも賛否両論の立場から深く考えさせられる最新のトピックを集め、世界についてより深い関心と理解を得られる機会を提供します。

4. 多様な言語形式

本文は、「モノローグ」のみならず「インタビュー」形式も採用し、明確なパラグラフ構成により、英語特有の論理展開を自然と身に付けることができ、発展タスクの「ダイアログ」「アナウンス」等と併せて、多様な言語形式に対応した英語の特徴を学習することができます。

5. リスニングの苦手意識を克服

リスニング初級者にも十分配慮し、音声を聞き取るために必要な項目を確実に積み上げていくボトムアップ学習と、内容理解に必要な、全体的把握から推論により部分的理解をおこなうトップダウン学習を取り入れ、リスニング学習に対する苦手意識を少しずつ解消し、リスニング力全体を向上させます。

本書を活用することで、様々な情報を先ずは「聞いて」理解し、時に「読む」ことで一層の理解を深め、自分の意見を整理し、それらを自分の言葉で「話し」「書く」という、学習効果に優れたコミュニケーション・プロセスを体験できるようになっています。豊富なタスクを一つ一つこなすうちに、耳からたくさんの情報が意味あるものとして飛び込んでくることを実感できるでしょう。そして、英語を耳から理解できたという喜びと自信が、さらなる学習意欲につながることを期待しています。

最後に、本書の作成に際しては、金星堂編集部の嶋田和成氏に、終始お世話になりました。末筆ながら心よりお礼を申し上げます。

2001年 1月 著者

本書の構成と使い方

本書は、20のユニットから構成され、各課にはそれぞれ明確な学習目的を持った3つのセクションと英語音声聞き取りのための有益なヒントが盛り込まれています。各セクションのねらいは次のとおりです。

GETTING READY

本文を聞く前の準備・導入のためのセクションで、次のTUNE IN TO THE STORYのタスクをスムーズに行うための準備となります。基本的に3つのタスクで構成されています。

- 1 トピック理解のために必要な背景知識が最大限に引き出されるように、関連する質問に答えたり話し合ったり、簡単な表を完成するタスクです。質問の内容を理解するだけでも、トピックが何を追及しようとしているのか、話題の方向性が見えてくるでしょう。これにより、これから聞こうとしている話題が無理なく吸収されるようなフォーマットを頭の中に作り出します。いわば、この「初期化」の作業がきちんと行われることで、目的意識を持った積極的なリスニングを可能にするのです。
- 2 下線部に入る語を聞き取りながら、本文聞き取りのためのキーワードや内容理解のために必要な語句を学習します。聞き取った後、正しい日本語の意味を選びます。下線部に入る語は大学生なら誰でも知っている易しい語ばかりですが、うまく聞き取れなかった時は何度も繰り返し聞くか、日本語の選択肢をヒントに英単語を推測してみるのもよいでしょう。それぞれの語句は意味的・音的に一つのまとまりを持っていますので、単語に区切らず提示されたままの意味と音を覚えることが重要です。
- 3 本文の冒頭や一部を実際に聞いて、音の変化やつながりを聞き取る練習をします。本文の一部をいわば「予告編」として実際に聞いておくことは、いきなり本文を聞くよりも心理的負担は軽くなり、よりリラックスして意味に集中できるでしょう。

HINTS FOR LISTENING

ここでは、英語音声を聞き取るために是非とも知っておきたい重要ポイントを、実際に本課のスク립トに出てくる語句と関連づけて説明してあります。とくに、リスニング初級者は、HINTS FOR LISTENINGのポイントだけに絞って、本文テープをじっくりと聞いてみるのもよいでしょう。また、繰り返し聞くだけでなく、自分で発音してみることも、英語特有のリズムやタイミングを身体で覚えるのに役立ちます。

TUNE IN TO THE STORY

本文を聞いて、意味内容の確認、必要な情報の検索、本文の要約といった、「理解」の活動にかかわる基本的・中心的な3つのタスクを行います。

- 1 本文のテープを聞きながら、話の大まかな流れを把握する練習をします。ここで重要

なことは、話のすべてを聞き取ろうとするのではなく、内容理解のためのキーワードを聞き取り、先のGETTING READYで得た語彙群や背景知識を最大限に利用して、内容を推測することです。リーディングでいえば、斜め読み (skimming) の技術がこれにあたります。

② 次にもう一度、本文のテープを聞きながら、内容の細部についての認識度を、True or Falseや表完成問題などでチェックしていきます。聞こえてくる一連の英語のなかから特定の情報を入手するための技術を練習します。ここでは、必要な箇所の聞き取りに集中することが大切です。リーディングでいえば、拾い読み (scanning) の技術がこれにあたります。

③ 空所補充問題を通して、本文の内容を3～5行程度の英文に要約する練習です。①のタスクで把握された本文の要点を整理し、一言で要約することは、内容理解のためのリスニングの最終目標でもあります。完成された要約文はテープを聞いてチェックした後、自分で何度も繰り返し読んでみましょう。

EXPANDING IDEAS AND SKILLS

TUNE IN TO THE STORYを通して得られた理解をさらに発展・拡充するためのセクションです。各課のトピックに対する自分の意見をもとに表を完成させたり、関連情報を示した表やグラフを的確に読み取る作業を通して、トピックに関するより一層の理解と関心を得られるよう工夫してあります。さらに、これらの理解を踏まえて、口頭で自分の意見を発表したり、対話練習をすることで、適切な英語表現と自己表現力を養えるようになっています。

各課とも基本的に、この手順によって学習を進めていきます。なお、各課の本文および練習問題で使用したスクリプトは、すべてネイティブスピーカーの協力を得て作成されたオーセンティックな教材です。付属のカセットテープを活用して授業での練習以外でも繰り返し聞くことで、さらにリスニング力を高め、教室外のコミュニケーションに積極的に役立ててください。